

胃がんに対する近年の話題

抗がん剤治療 在り方変化

九州大病院別府病院の治療・研究

からだを 読み解く

▶ 5 ◀



内科医員
花村文康

気やしびれなどの副作用が
あります。
近年の抗がん剤治療で話
題となっているのが免疫チ
ェックポイント阻害薬のニ
ボルマブです。ニボルマブ
はオプジーボという商品名
で有名な薬剤です。元々、

ステージ4の胃がんは一
般的に予後の悪い病気とし
て知られています。手術や
放射線での治療は難しく、
抗がん剤を使った全身化学
療法が標準治療となります
が、ここ数年で胃がんにお
ける抗がん剤治療の在り方
が大きく変わってきていま
す。長く、殺細胞性抗がん
剤のフツ化ピリミジン系抗
がん剤とプラチナ製剤を組
み合わせた治療の効果が高
いとされてきました。これ
らの抗がん剤は、がん細胞
の分裂を抑えて治療効果を
発揮しますが、同時に正常
細胞にも作用するため吐き

胃がんのタイプ別に使用が推奨される薬剤

胃がんのタイプ	使用が推奨される薬剤
免疫療法が効きやすい	ニボルマブ、 ペムブロリズマブ
HER2陽性	トラスツズマブ、 トラスツズマブ デルク ステカン
CLD 18.2陽性	ゾルベツキシマブ

免疫が攻撃、阻害薬に効果期待

体に備わる免疫細胞はがん
細胞を異物として取り除き
ますが、がん細胞が持つP
D-1という物質が免疫
細胞の働きを抑制してしま
います。ニボルマブはPD
-1の働きを阻害するこ
とで免疫細胞にがん細胞を
攻撃させて治療効果を発揮
します。2017年から胃
がんの患者さんにも使用で
きるようになりました。ニ
ボルマブは非常に高い効果
が期待できますが、全く効
果が見られないケースが
4、5割程度あるのが問題
でした。21年からのこのニボ
ルマブを殺細胞性抗がん剤
と併用できるようになり、
治療成績が向上し、生存期
間が3年以上の患者さんも
います。

胃がんの20〜30%を占め
るHER2陽性胃がんでは、
分子標的薬のトラスツ
ズマブが最初の抗がん剤
治療で併用されていまし
た。20年からトラスツズマ
ブを改良したトラスツズマ
ブ デルクステカンという

抗がん剤が使用されていま
す。最近ではこれらに免疫
チェックポイント阻害薬を
併用する治療開発も進んで
います。最新のトピックと
しては、CLD 18・2陽
性胃がんではタンパク質を
標的とした分子標的薬のゾ
ルベツキシマブに良好な治
療効果が見られたと、世界
的に有名な医学誌「ランセ
ット」で報告されました。
ゾルベツキシマブは日本で
は未承認の薬剤ですが、近
い将来臨床現場で使われる
ことが見込まれます。

たくさんの新しい薬剤が
登場し、胃がんは患者さん
それぞれの病気の特性に合
わせた個別化医療の時代と
なってきています。一方で
医療が複雑化する中でたく
さんの情報があふれるよう
になり、最適な医療へアク
セスすることが難しくもな
ってきています。信頼のお
ける主治医にしっかりと相
談して自分に合った治療を
受けることをお勧めしま
す。